

平成 29 年 9 月定例会 一般質問

荒井宏幸 皆さん，おはようございます。保守市民クラブ，荒井宏幸です。今定例会では 22 名が一般質問に立つことになっていますが，きのうまででちょうど半分となる 11 名が質問を終え，本日から折り返し，後半戦に突入となります。3 日目トップバッターとして元気よくやっていきたいと思えます。

それでは，通告に従い，分割にて質問します。

まず 1，市営野球場の新設についてです。

ことしの 2 月定例会にて私は，老朽化が進む本市所有の鳥屋野運動公園野球場，小針野球場について，今後の方向性を決断する時期に来ているのではないかと問題提起しました。その後，新聞報道もありましたが，新潟県野球協議会から具体的で壮大な提案，パーク・ボールゲーム・パークプロジェクトについて提案，要望がありました。

新潟県野球協議会は，下は小・中学生から始まり，高野連，大学野球，BCリーグ，上は還暦野球まで，軟式から硬式まで，去年は女子野球連盟も加わり，県内の野球関係を網羅する 11 団体で構成されています。今回の提案，要望は，野球をこよなく愛してやまない新潟県内，新潟市内の愛好者，関係者の代表意見であると言えます。

提案，要望の内容は，老朽化と周囲の宅地化による環境変化への対応が課題となっている鳥屋野野球場と小針野球場を取り壊し，鳥屋野潟南部のハードオフエコスタジアム新潟に隣接する広大な農地で，新しい球場を核としたまちづくりを推進したいという考えです。このまちづくりは，災害発生時に

は活動拠点となる整備を初め、新潟へNPB日本野球機構のプロ野球球団を誘致し、交流人口の増加による市内企業への経済効果や、交通網の整備により利便性の向上を図ることで新潟の魅力が増大し、地域活性化に寄与することを最終目的としています。

東京の明治神宮野球場と神宮第2球場や、四国の松山中央公園内にある坊っちゃんスタジアムとマドンナスタジアムのように、新しい市営野球場もハードオフエコスタジアム新潟に隣接することで、大会運営を初め、多くのメリットや相乗効果が生まれます。全国大会、国際大会の誘致にも強みとなると思います。

パーク・ボールゲーム・パークは、幅広く市民が楽しめる時間と場の提供を目指しています。現在の鳥屋野運動公園野球場周辺は、野球場以外にも運動公園、球技場、馬場、交通公園がありますが、これら一帯を集中させ、利便性と公共性を高め、経済的な移設を考えています。広々とした開放された空間で、馬に乗ったり、ゴーカートに乗ったり、将来もっと新しい刺激的な乗り物が世に出てきたらそういうものに乗ったりと、夢は膨らみます。夢とともに、計画の先に見える現実的な未来を重ね、プロジェクトの前進を祈念して質問します。

(1)、パーク・ボールゲーム・パークプロジェクトは、野球のみならず市民が健康的に安全に1日過ごせる空間として、多くの人々から幅広く受け入れられると期待が膨らみます。市長は率直にどのような感想を持たれているのかお聞かせください。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 皆さん、おはようございます。荒井宏幸議員の御質問にお答えします。

まず、市営野球場の新設についてのうち、パーク・ボールゲーム・パークプロジェクトに対する感想についてです。

新潟県野球協議会からいただいた提案、要望については、鳥屋野運動公園野球場及び小針野球場を1つに集約し、球技場、馬場や交通公園と一緒に鳥屋野潟南部へ移転し、新しい野球場を核としたまちづくりを進めることを内容とするものでした。

特に2つの野球場については1963年及び1970年築で、それぞれ竣工から50年前後が経過し老朽化が進んでいることや、駐車場の収容台数が少ないこと、周辺の宅地化が進み、大会の開催に支障を来すことなど、野球場周辺環境が大きく変化してきた中で、この要望はこれらの課題解決に向けた有意な提案、要望であると考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 さすがに市長はよく状況を把握していると思っています。

それでは、（2）、現在の進捗状況についてお聞きしたいと思います。

市長は、土地の用途区分であるゾーニングを変更するための協議の場を設

置したいとの考えを、8月22日の定例会見にて示されましたが、具体的な日程は決定しているのでしょうか。

続きまして、(3)、NPB日本野球機構のプロ野球球団の本格誘致への足がかりとしても、このプロジェクトは重要な役割を果たすと思われませんが、今後の展開についてお聞かせください。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 現在の進捗状況についてです。

新潟県野球協議会より市営球場の新設の提案を受けた場所は、鳥屋野潟南部開発計画区域の住居ゾーンであり、人口減少や少子・高齢化を初めとした社会・経済状況の変化や、スポーツ公園における大規模イベントの開催状況などから、本市としても住居以外での土地利用の必要性について認識しており、今月よりゾーニングの見直しに向けた具体的な作業に着手しました。今後は関係機関との協議を重ね、本市と新潟県、亀田郷土地改良区の三者で協議しながらゾーニングの検討を進めていきます。

次に、NPBプロ野球球団の本格誘致への今後の展望についてです。

NPBプロ野球球団の誘致には、メイン球場のほか、ファーム、2軍球場や練習場が整っていることが必要となります。新潟県野球協議会からいただいた提案、要望にある新たな野球場の建設は、誘致について積極的に取り組んでいく上で有利に働くものと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 今ほど答弁にありました三者協議の具体的な日程はまだ決まっていないのでしょうか。あるいは、大体いつごろまでにそういった調整をして、これを実行に移したいというお考えでしょうか。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 本市，新潟県，亀田郷土地改良区の三者による実務者の話し合い，具体的な作業に今月既に着手して，実務者のテーブルができていると報告を受けています。今後，その話し合いの進捗状況によりますが，年度内にどのようなところまで前進できたか，三者のトップ同士で確認するというようなタイムスケジュールを考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 ぜひ年度内と言わず，年内にはお話をしていただければと思っています。

次に（４），防災，救援への観点からも，広い駐車場や各グラウンドなどで多くの物資，人員の受け入れが可能であり，災害時の活動拠点として機能できることが期待されますが，その点についてどう思いますでしょうか。

続いて（５），野球を初め，各競技の全国大会や国際大会の開催に伴い，国内外から交流人口の拡大がもたらされると考えますが，期待するところがありますか。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 駐車場やグラウンドが災害時の活動拠点として機能すると考えられることについてお答えします。

野球場及び附帯施設が鳥屋野潟南部に新設された場合，市民病院や消防局などの防災関連施設が近接していること，駐車場など平坦で一定の広さのある敷地の確保が可能なことから，中越地震で自衛隊が災害支援活動をした際，新潟県スポーツ公園駐車場がその拠点となった事例があったように，多くの物資や人員を受け入れる防災・救援拠点として機能させることも，その活用方法の一つとして考えられます。

次に，交流人口の拡大がもたらされることへの期待についてです。

本市においてNPBプロ野球球団の誘致，設立がなされた場合，県内外から訪れる観戦客の動員など，新たな誘客が見込めると考えられます。さらに，これまで文化・スポーツコミッションと連携し，今月末に開催される全日本早起野球大会といった国際・全国規模の野球大会，また女子野球の日本代表候補の強化合宿などを誘致していますが，引き続き誘致に取り組むことにより，市民のスポーツへの関心が高まるとともに，トップレベルのプレーに触れることによる競技力の向上に資するものと考えています。

また，来訪する選手，役員やメディアなどの関係者による交流人口の拡大

につながっており、今回の提案、要望にある野球場の新設によって、さらに交流人口の拡大がもたらされるものと期待しています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 私もこの交流人口の拡大に関しまして、野球関係者・愛好者のみならず、市民全体にかかわる期待ができる場所であると思っていますので、ぜひ今後とも大いに御尽力をいただけるものと期待しています。

次に2、新潟卸団地の整備推進についてです。

新潟卸団地は昭和43年6月に設立された総合流通団地で、来年50年を迎えようとしています。設立以来、本市はもとより、新潟県及び隣県、東北地方の流通拠点として重要な役割を担っています。その間、協同組合新潟卸センターは、歴代の組合役員及び企業経営者・社員の皆様の協力のもと、長年において企業集積の維持に心血を注いでこられました。

新潟駅から5キロメートル圏内という好立地にあり、新潟バイパスの竹尾インターチェンジが隣接し、また新潟空港並びに日本海東北自動車道の新潟東スマートインターチェンジも近くに位置しています。交通のインフラ環境に恵まれ、新潟卸団地に進出したいとの希望を持たれている企業も多くあり、現在も新潟市東区で一番の企業数を形成しています。その結果、新潟市民、新潟卸団地の周辺住民の皆様の雇用が守られていることは、とても素晴らしいことであると思っています。

新潟卸団地は設立当初、卸売業を営む会社で構成されていましたが、現在

においてはさまざまな業種が進出しており、時代に対応できる新たな商流の拠点づくりに、引き続き経営者の皆様が自助努力されています。

このような本市の中心部に近い新潟卸団地が、次の50年においても引き続き発展を続けるために、新潟卸センターが本市に対し、企業集積地として維持していくための地区計画等、環境を整える整備及び新潟卸団地周辺の交通環境の改善について協力の要請を行ったところ、本市の関係機関及び東区役所の協力による連携した協議がなされており、大変感謝していると伺っています。

そこでお伺いします。(1)、新潟卸団地の企業集積地としての形成維持は、将来における企業誘致、雇用確保につながり、人口流出、人口減少の抑制や地域経済の活性化につながると考えています。市民が地元に住んで、地元で働ける環境があるということは、家族とともに心豊かに安心して暮らしていけるものと考えています。

そこで市長は、本市の産業を発展させる上で新潟卸団地及びその周辺地域をどのような位置づけで考えているのでしょうか。私は本市の発展のために重要な拠点であると考えています。新潟卸団地において安心した経営環境が維持され、周辺住民の方々が地元で働くことができ、心豊かに生活していくために、本市はどのような協力をしていただけるのか、見解を伺います。

続きまして(2)、新潟卸団地及び周辺道路については、交通の混雑緩和が望まれています。50年の歴史の中で、新潟卸団地の外周には大型物流施設ができ、大型トラックが一日中出入りしています。新潟駅、新潟空港から近く、新潟バイパスの交通量は多く、新潟東スマートインターチェンジも順

調な利用台数で推移し、近い将来には新潟中央環状道路の完成が見込まれ、粟ノ木バイパス工事も順調に進んでいます。これらのことから、主要地方道新潟港横越線、いわゆる赤道を初め、新潟卸団地及び周辺のさらなる交通量の増加も予測されます。

新潟卸団地が要望している交通インフラの整備については、本市の関係機関が整備課題の協議、検討を熱心に進めており、大変有意義なことと思っていますし、市長も十分に理解されていると思っています。しかしながら、新潟卸団地に通勤する約5,000人と物流の増大に対応する道路整備は十分とは言えません。これらの課題に対し、周辺の住民の方々の御意見も含め、議論を重ね、整備を進めることを求めるものですが、見解を伺います。

○議長（永井武弘） 渡辺経済部長。

〔渡辺東一経済部長 登壇〕

◎経済部長（渡辺東一） 新潟卸団地及びその周辺の位置づけについてお答えします。

新潟卸団地は、昭和39年の新潟地震の復興を契機に、市内の卸売店舗が計画的に集団移転し、事業を共同化することにより近代化、高度化を図ることを目的とし、昭和43年に協同組合新潟卸センターが設立され、以来49年、来年で50周年の節目を迎えるわけですが、市内有数の卸売業の同業種が集積する団地として、本市の産業の発展に欠かせない機能を担っていただいています。

また、新潟卸団地の周辺は、新潟バイパス竹尾インターチェンジの近郊という好立地から、住宅や公共施設が整備されるなど市街化が進んでおり、本

市のまちづくりにおいても利便性の高いエリアと捉えています。

次に、新潟卸団地の周辺道路の今後についてお答えします。

新潟卸団地の周辺道路については、業務車両、生活車両双方にとって円滑な通行を確保するため、現在、主要地方道新潟港横越線の卸新町交差点への隅切り設置や、石山地下道の側道拡幅を進めています。今後も地域の皆様を初め、国、県、警察などの関係機関と話し合いを行いながら、さらなる道路利用環境の改善に努めていきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 本市における経済、産業の発展のために、これまで新潟卸団地は大きく寄与してきたと認識しています。そして、今後も本市の課題を解決する上で重要な役割を果たすと確信しています。新潟卸団地の価値を高めるために、インフラの整備は必要不可欠であると日々感じているところです。

そんな中、今回、経済部長からは前向きな答弁をいただいたと思っています。これからぜひ、関係各部署とともに、さらに大きな御尽力を期待するところです。そのことを申し上げて次の質問に移りたいと思います。

最後に3、自動体外式除細動器（AED）の普及、啓発についてです。

先日、救急の日である9月9日に、見附市において、市内の事業所にある自動体外式除細動器、AEDの有効活用を図ろうと、AEDの駅として市内88事業所を登録する取り組みが始まりました。

AEDは、心肺停止から5分以内の使用で救命効果が高まるとされます。

A E Dの駅の仕組みは、119番通報で心肺停止やその疑いがあると、現場から半径約100メートル以内の登録事業所に市の消防本部が電話で協力を要請し、事業所の人現場にA E Dを届けるか、または現場にいる人が事業所までとりに行くというもので、新聞やニュースでも取り上げられていました。

本市においても、にいがた救命サポーター制度が昨年4月から既に導入されています。心肺停止が疑われる119番通報時に、消防指令管制センターの指導で、通報場所近くの登録事業所の人からA E Dを届けてもらうか、あるいは現場の人が借りに行き、救急隊が到着する前に一刻も早く電気ショックを行ってもらうというものです。

突然起こる心停止には、心室細動という不整脈が原因のことがあります。この心室細動への唯一の治療が除細動、いわゆる電気ショックです。A E Dは、誰もが安全に使えるように開発された医療機器です。除細動には早ければ早いほど有効で、救急隊が到着後に行うより、その場に居合わせた人が行ったほうが高い救命効果が、実に2倍以上の救命効果が得られています。これらのことは、本市ホームページにおいてイラストなども使い、わかりやすく説明されています。

本市における協力事業所の数は、9月15日の時点で民間事業所等899カ所、市関連施設492カ所、合計で1,391カ所と、大変多くの事業所から協力を得ています。このように、最近ではA E Dの設置は非常に広がっており、心強く感じています。

しかしながら、一方で課題もあると感じています。せっかくあるA E Dが使われない、あるいは使うことへのちゅうちょがあるといったことです。こ

としの夏、とても悲しい出来事がありました。加茂暁星高校の野球部でマネジャーをしていた女子生徒が練習直後に倒れ、病院に搬送されましたが、後日死亡するという痛ましい事故でした。生徒が倒れた後、呼吸があると判断し、学校にあるAEDは使用されなかったわけですが、心停止の状態でも呼吸しているように見える死戦期呼吸であった可能性があり、AEDを使っていたら助かっていたかもしれないという親御さんの無念さは察するに余りあります。

AEDは、人に装着すると、まず心電図を解析します。そして、電気ショックが必要な場合にのみ自動で充電し、準備を始めます。もし電気ショックが必要ない状態であれば、必要ありませんときちんと音声ガイドが流れます。実行ボタンを押したとしても反応しません。不必要な電気ショックで状態を悪化させるという心配も不要です。迷った場合は、とりあえずAEDを装着して、あとはAEDの音声に従えばいいだけです。正しい理解を広めることが大切であると強く思います。

そして、頭で理解するとともに、AEDに実際に触れてみることも大切であると思います。本当に死にそうな人を目の前にして、初めて手にするAEDを使うとしたら、それは相当な勇気が要ることだと思います。しかし、一度でも触れた経験があれば、そのハードルは一気に下がります。地域の防災訓練などでAEDを実際に操作する機会もあると思います。これは、多くの人がAEDに触れる実にはいい機会であると思っています。私が住む地域でも、グループに分かれていざ行ってみますと、消防士が「では、どなたかやってみてくださる方はいらっしゃいませんか」と尋ねますが、下を向いたり、遠くを

見て目を合わせないようにしたりと、どうも遠慮がちな方が多いようです。重い空気が漂い始め、耐え切れずに「はい、やります」と私がいつもやらせていただいているわけです。おかげさまで、自信を持ってAEDをお勧めできるようになりました。

日本AED財団によりますと、心臓が原因の突然死は国内で約7万人、これは1日に200人、7.5分に1人が心臓突然死で亡くなっていることとなります。倒れる瞬間をほかの人が目撃した中で、AEDによる電気ショックが行われたのはわずかに4.5%であるとのことでした。

そこで伺います。(1)、一人でも多くの貴重な命を救うために、本市において多くの方がAEDについて正しく理解し、個人の善意と勇気によってAEDを使うことができるようにするため、どのような取り組みをされていますか。

続きまして(2)、にいがた救命サポーター制度により、近くの協力事業所からいち早くAEDを借りることが可能になりましたが、多くの事業所で業務が終了し無人となる夜間や休日でも、心停止で突然倒れる方はいます。そこで提案したいのですが、年中無休、24時間営業のコンビニエンスストア、飲食店、ガソリンスタンド等にも設置が広がるように、特別にAED設置事業補助金の補助対象事業者に加えてはいかがでしょうか。

○議長（永井武弘） 長井保健衛生部長。

〔長井亮一保健衛生部長 登壇〕

◎保健衛生部長（長井亮一） AEDの普及、啓発についてのうち、AEDの設置補助対象についてお答えします。

本市のAED設置補助制度においては、自治会や地域コミュニティ協議会などによる設置を対象としています。民間事業所については、みずから設置していただくことを基本としており、既に1,600を超える事業所から協力をいただいています。

今後についても民間事業所からさらに協力していただけるよう、AEDの効用や使用方法だけでなく、有効例を初めとした、地域への貢献などについても普及啓発を行っていきます。

また、議員御提案の年中無休、24時間営業の店舗など、民間施設を含めたAEDの効果的な設置に向けた補助制度のあり方については、他の政令市等の取り組みの状況も見ながら研究していきます。

○議長（永井武弘） 土田消防長。

〔土田克行消防長 登壇〕

◎消防長（土田克行） 自動体外式除細動器、AEDの普及、啓発についてのうち、市民がAEDについて正しく理解し、ためらうことなくAEDを使うことができるようにするための取り組みについてお答えします。

先ほど議員が述べられたとおり、AEDは、音声ガイドに従えば誰でも簡単に使用することができる、安全性、信頼性にすぐれた、救命効果の高い医療機器です。

本市では、平成17年度からAEDの使用方法も取り入れた応急手当講習会を開催し、多くの市民が的確な心肺蘇生法を行えるよう、応急手当の普及啓発に努めています。昨年度は1万6,413名の市民が受講し、平成17年度から昨年度までの受講者数は23万3,188名となっています。応急手当講

習会において、受講者には、命を救うために心肺蘇生法を実施することの重要性を説明し、たとえ救うことができなかったとしても責任を問われることはないということも説明して、勇気ある積極的な救命行動をお願いしています。

また、時として心肺停止の状態でも呼吸をしているように見える死戦期呼吸についても、その動画を見ていただいたり、職員がその呼吸を再現してみせることで、受講者に理解を深めていただき、普通の呼吸であるか否か迷ったときには、ちゅうちょすることなくAEDのパッドを張っていただくよう指導しています。なお、応急手当講習会で使用する現在のリーフレットには、死戦期呼吸の動画を見ることができるようQRコードを掲載しています。

昨年度、にいがた救命サポーター制度によるものも含め、市民によるAEDの使用実績は、13名の方にパッドが装着され、そのうち電気ショックが必要とされた6名の方にショックが施され、救急隊が到着する前には心肺機能が再開し、6名全員が社会復帰しています。

市民がAEDを有効に活用することで、さらなる救命率の向上が期待できますので、今後も地域や事業所での防火・防災訓練や各種イベントを活用し、AEDに繰り返し触れていただく機会を設け、応急手当ての普及啓発に努めるとともに、事業所において的確な心肺蘇生法を指導できる応急手当普及員の育成に取り組んでいきます。

また、にいがた救命サポーター制度の協力事業所への登録促進に取り組み、市民協働による救命率の向上に努めていきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 A E Dの普及，そして講習会の積極的な取り組み，ぜひ引き続き進めていただきたいと思います。

これからの時期，各地域において防災訓練が多く開催されてくるかと思えます。ぜひこの機会に，多くの方からA E Dに触れていただきたいと思います。しかしながら，先ほども申し上げましたとおり，しょうしがりで奥ゆかしい方が多い本市においては，なかなか前に進んで積極的にやるという方が少ないと思えますので，1列に並んで順番にやっていただくとか，同時に二，三人の方に前に出ていただいて順番にやっていただくとか，そのような工夫をしながら推し進めていただきたいと思います。

そして，コンビニ等へのA E Dの設置の件ですが，他都市においても既に幾つも実績があるようです。ぜひその辺の事例などを参考にして，本市においても早く導入していただきたいと思いますところではあります。地域の中で，コンビニとかは夜も明るいので，すぐに場所がわかりやすいところにあります。また，本市において新たな補助制度を設けるというわけではなくて，既存の制度を活用した中で，民間において，それも一部の24時間，年中無休で営業しているところに広げていただきたいと思いますことですので，この場でやりますということはお答えいただけないと思いますが，ぜひ早期に実施に踏み切られるよう強く求めて，私の質問を終わらせていただきます。（拍手）